

開会祝辞

長勢 ご紹介をいただきました衆議院議員の長勢甚遠でございます。本日は、世界各国からお見えいただいて、このように盛大にCiettのリージョナルワークショップが開催されますことに心からお祝いを申し上げます。

人材派遣の歴史というのは、また内容というものも国によってそれぞれ若干の特色を持っているのだらうと思います。ぜひ、このワークショップを通じてそれを参考にして、今後の人材派遣業界の発展の役割になれば大変素晴らしいなと期待する次第でございます。

日本においても、人材派遣業が具体化してからまだ二十七、八年というところだろうと思います。まだまだこれからが業界発展の山場になっていくと思っております。年々、派遣業界は拡大の一途をたどってまいりました。しかし、そのときも違法派遣の問題がどうしてもつきまといまわって、そういうことについて批判を浴びることもありました。特に、先ほどもお話がありましたが、リーマンショック後の日本の経済がおかしくなったときに、その矛先が派遣業界に向けられて年越し派遣村などというものさえできる事態になりました。あの期間に派遣業界に対するいわれなき誹謗中傷というものがマスコミ等々で、また一部の左翼団体から提起をされて皆さん方も大変ご苦労されたことだと思いません。例えば、派遣業界は暴利をむさぼっておるとか、派遣に行くと労働条件が劣悪になるとか、派遣労働者は雇用の安定が守られないとか色々なことが言われて、そういう勢いをバネにして民主党政権は登録派遣、製造業派遣の禁止を土台とする派遣業法の改正案を国会に提出いたしました。

しかし、よくよく冷静に考えてみますと派遣業界というのは、やはり多様な労働者、多様な企業のニーズにマッチするための重要な需給調整機能を果たしておるわけでございます。そのことが段々理解され、今週になると思いますが、政府の出した派遣業法の改正案は自民党等の反対によって大幅に修正され、登録派遣だとか製造業派遣の禁止ということとはなくなる改正に落ちつく状況になっております。

ここでこの問題は一応一段落したわけでございますが、まだまだ日本においては派遣業界というのがちゃんとした企業者として理解されているかということは、よく皆さん方も頭に置いて、これからも頑張ってくださいと思います。やはり派遣業界が、派遣で勤めている方々の処遇の改善、あるいは雇用の安定に資するものである、そういうことが社会から認められるような業界に育っていただきたいと思っております。

そういう意味で、この会合も大いに有意義なものと思っております。このリージョナルワークショップが大きな成果を上げられますように心からご祈念して、私のお祝いのご挨拶といたします。頑張ってください。(拍手)